

都道府県の人口密度と生コンクリート消費密度(単位面積当たりの消費量)との関係を一次式で回帰し、人口密度の大小に関係なく面積の大小により各都道府県に配分される生コン消費量の割合を「留保率」と定義し、その変遷を見てきた。留保率が1.0に近いほど一人当たり生コン消費量が地方に多く、留保率ゼロであれば都会のほうが多くなる。すなわち、一人当たりの建設投資が都会重視か地方重視かの程度を値一つで表現する。ことは第7回(本誌10月号)より説明してきたとおりである。

とはいえ、すんなりと1971年以降の経済産業(通商産業)省の都道府県別・用途別生コン出荷量統計をもとに留保率を求めるわけにはいかなかったのも前回ご説明したとおりである。この統計は各都道府県にて「製造・出荷された」生コンの量であり、特に埼玉・東京・神奈川での都県境を越えた生コンの移動量が



Joker 2号 大内雅博の

当たり前とも
いえども
遠からず 連載

正会員 編集委員 大内雅博 OUCHI Masahiro (高知工科大学助教授)

無視できないことがわかったからである。

各都道府県で「消費された」生コンの量については全国生コンクリート工業組合連合会が統計を整備しているが、1989年以降のデータしかない。とはいえ、貴重なデータであるから利用しない手はない。そこで埼玉・東京・神奈川の生コン「出荷量」と「消費量」を比較し、都県境を越えた生コンの割合を算出してみた(図-1)。埼玉で製造された生コンの2割から3割程度、神奈川で製造された生コンの1割強から2割強が東京に運ばれて

打設されていると言えそうである。年による変動は見られるが、長期的な傾向はなさそうである。

1988年以前についてはデータがないのでどうしようもないが諦めたくない。そこで別の手を使って推定を試みることにする。生コンは参入が比較的容易な産業の一つであると言われており、需給関係の変動が製造能力の変動に直結しやすい。すなわち、埼玉・東京・神奈川の間で需給のバランスが変動すれば、製造能力のバランスも変動するものと見なすことにする。

そこで、生コン製造能力のバ

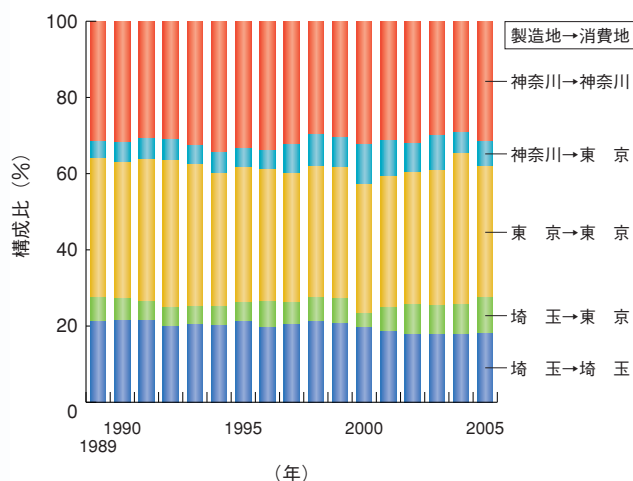


図-1 東京近辺(埼玉-東京-神奈川)の生コンクリートの移動(三都県からの生コン出荷量の合計を100%とした場合の構成比)

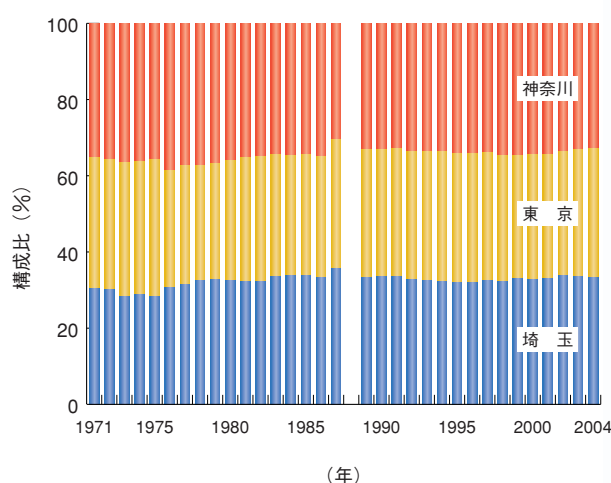


図-2 東京近辺(埼玉-東京-神奈川)の生コンクリート生産能力のバランスの推移(1988年のデータなし)

第9回

都会重視か地方重視か？

—土木建築 35 年間の変遷

ランスの推移を求めてみた(図-2)。前後にデータの取り方が異なるものが含まれているが、1971年から2004年まで、おおむね埼玉・東京・神奈川間のバランスは一定であると見なしてよいであろう。

よって、1971年から2005年まで、経済産業(通商産業)省の都道府県別・用途別生コン出荷量統計データの土木・民需建築・官公需建築向けそれぞれについて、

- ・埼玉で製造された生コンのうち24%を東京に
- ・神奈川で製造された生コンのうち18%を東京に

移動させることにより各都道府県の生コン消費量を算出し、留保率の変遷を求めた(図-3)。あわせて各都道府県人口密度と消費密度との相関係数を示す(図-4)。土木、民需建築、官公需建築とも三者三様の変遷をたどっているのが興味深い。

民需建築の留保率はほとんどマイナス、すなわち都会に手厚い状態が続いてきた。そのなかで留保率が極端なマイナスになっているのが第一次オイルショック前、昭和末期から平成初期のバブル、そして昨今の都心回帰の時期であることがはっきり

と表れている。

官公需向け建築の留保率が民需より大きいのは官公需の役割を考えれば当然であるが、1990年代初頭から中頃にかけての大きなマイナスが気になるのはこれまでに書いたとおりである。

そして土木である。昨今は留保率70%代で推移しており、地方に手厚い。また、建築二者と比べると相関係数が小さい。人口の大小のみで建設投資を決定するわけではない土木の特徴がよく表れている。とはいえ、1970年代初頭の留保率は50%程度である。これ以前はどうなったのか。用途別生コン出荷量統計がないのが残念であるが、なんとか明らかにしたい気がする。

参考文献

- 1) 経済産業(通商産業)省：需要先別生コンクリート生産高、1971～2005年
- 2) 全国生コンクリート工業組合連合会：生コンクリート出荷高の推移、1989～2005年度
- 3) セメント新聞社(1971～76)および全国生コンクリート工業組合連合会(1977～2004)：生コンクリート生産設備能力推移、1971～2004年

(資料提供：全国生コンクリート工業組合連合会、(株)セメント新聞社)

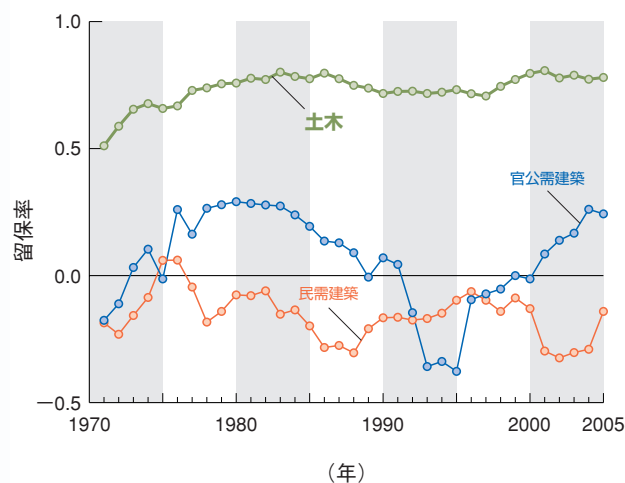


図-3 留保率の推移

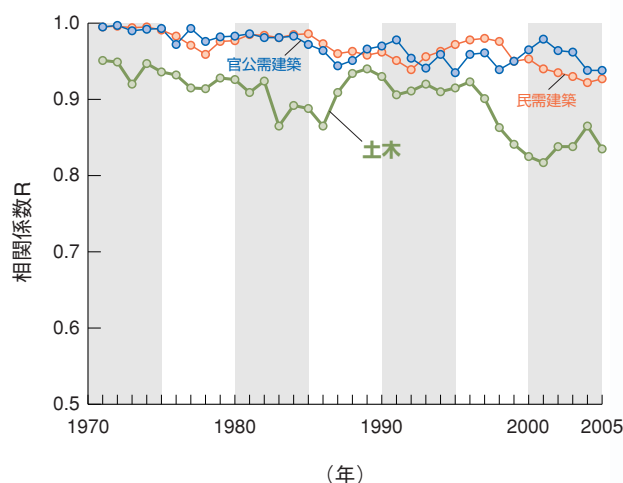


図-4 各都道府県の人口密度と生コン消費密度との間の相関係数の推移

(キャラクター&外枠デザイン：宇野洋志城)